

この地域には中高一貫の精神が根付いている

郷土愛活動総括 川根高等学校 浅川典善副校長

より実情に即した活動へと変化

今年で9回目を迎えた郷土愛活動。最初のころは大井川のクリーン作戦として、河川美化などに重点を置き実施していました。しかし活動を続けていく中で、大井川流域は基本的にゴミが少ないということが分かってきました。先生たちからも、同様の意見が挙がっていたため、最近では道路美化や集会所周辺の清掃などへと活動がシフトしてきています。

今回の活動に際しては、事前に各区長さんに「どんなところを作業して欲しいか」を聞き取りしました。その結果、要望が出されたのが集会所などの清掃でした。より地域の実情に即した地域に必要とされる活動になってきた

のではないのでしょうか。

活動に参加した生徒たちは、本当に熱心に作業してくれました。でももしかしら、今は義務感でやっている生徒も多いのかもしれない。言われたから仕方なく。そんな子もいるかと思えます。でも何年か経って振り返ったときに、やって良かったなああって、きっと思ってもらえると思うんですね。

いつも何気なく通り過ぎていた通学路などをきれいにする。わずか1時間程度の作業ですが、地域の環境を見直すきっかけになればと思います。本活動を通して、生徒全員が地域への愛着を深めてくれたらと思っています。

この地域ならではの交流の形

朝の通勤途中、中学生と高校生が自転車ですれ違うシーンに出会いました。その2人はすれ違う瞬間、互いに会釈を交わしたんです。驚きを隠せませんでした。都会の学生では絶対にあり得ない。きつと目も合わないでしょう。この地域に、中高一貫教育の精神が根付いていると実感した出来事でした。

川根高校では、各中学校の体育祭に生徒を派遣し、交流する企画も立っています。川高生と後輩たちの交流がより深まると思います。こういったさまざまな活動を通して、中高連携がさらに進み、地域に根付いた中高一貫教育となっていくよう努めていきます。

大人になってもこの町は変わらないで欲しい

郷土愛活動参加者 川根高等学校 山口優菜さん

中学生との交流も楽しみに

わたしは、徳山区での活動に参加しました。活動前は、中学生とうまく話せるか、リーダーシップがしっかりとれるか心配しましたが、始まってみれば楽しく会話することができ、とても楽しく取り組みました。また、小学校のころ一緒に過ごした後輩たちと久しぶりに会い、身長が伸びていたり、大人っぽくなっていたりして、とても驚きました。

中学生と高校生が混じり合い、各グループに分かれて草取りやゴミ拾いをしました。わたしたちの班は、ときどきの池の草取りをしました。

各班に5、6枚のゴミ袋が渡され、中学生と話をしながら清掃作業をし

ました。中学生に部活のことや学校生活のこと、どこの高校に行きたいかなどさまざまな話をすることができました。中学生からも質問され、高校生活のことを教えてあげました。普段の高校生活であまり話すことがない下級生ともたくさん話すことができました。

わたしたちの班は、もらったゴミ袋をすべていっぱいにすることができ、とてもうれしく思いました。清掃時間は短く、一時間と限られていましたが、ときどきの池をきれいにすることができて良かったです。

大人になってもこの町で

この活動の狙いは、中・高生が交流しながら、地域の自然や環境の美化に取り組み、古里を愛する豊かな心を育てること。この年一回の活動はお互いの学校の様子を知ることができ、また互いに刺激を与え合うこともできます。本町は今、少子高齢化が進んでいます。少ない子どもたちが、地域のために活動する機会を増やし、地域の良さを知り、大人になってもこの町に住みたいと思えたら素晴らしいことです。

わたしは、川根本町が大好きです。わたしが大人になっても、この町はこの町であり続けてほしい。

いつまでも、みんながそんな気持ちを持って、この郷土愛活動を続けていくことができたらと思っています。